



2009年度 学友会在籍者数および役員一覧

	中1	中2	中3	中学合計	高1	高2	高3	高校合計	総部員数	学友会役員			部長	副部長	マネージャー	
										中学部長	中学副部長	中学マネージャー				
学	英語部	0	0	0	0	4	0	4	4	(中高一緒に活動)			澄川 眞刀			
	演劇部	2	3	3	8	4	0	4	16	武田 大輝			平賀 優介	本木 智也		
	科学部	3	7	5	15	4	1	3	8	副島 智大		有馬 弘晃	後藤 大門	本橋 和樹	太刀川啓介	
	写真部	3	1	1	5	1	0	3	4	(中高一緒に活動)			植 隆弘			
	吹奏楽部	18	6	13	37	12	10	3	25	片岡 大顕	長尾 崇史		小幡 貴司	森山 海太		
	生物部	7	1	7	15	6	0	1	7	濱田 駿			内藤 功輝	山田 恭平	山田 圭祐	
	聖ポーロ会	1	0	0	1	0	5	0	5	(中高一緒に活動)			須田 滉也			
	地歴研究部	1	2	2	5	4	0	4	8	(中高一緒に活動)			石井 瑛啓			
	天文部	2	1	2	5	1	7	4	12	山田 祐暉			小金沢 諒	中沢 航佑		
	美術部	0	0	1	1	1	0	2	3	(中高一緒に活動)			本多 良旭			
	文芸部	0	0	6	6	0	0	1	1	(中高一緒に活動)			齋藤 豪			
	放送研究部	2	3	1	6	3	2	2	7	(中高一緒に活動)			明石 琢郎	加来 潤貴		
	クワイアー	3	2	4	9	1	1	7	9	(中高一緒に活動)			鈴木聡一郎	田中優裕		
数理研究同好会	3	12	2	17	5	7	11	23	熊谷 直紀			田中 優裕	大平 拓	喜多村晟大		
合計	45	38	47	130	42	37	45	124	254							
(アコライト)	1	5	6	12	4	7	1	12	24	(中高一緒に活動)			佐藤 康之			
										中学キャプテン	中学副キャプテン	中学マネージャー	高校キャプテン	高校副キャプテン	高校マネージャー	
運	剣道部	4	3	2	9	1	4	0	5	14	鈴木 隼人			大畑 修一	坂上 直也	
	ゴルフ部	8	16	7	31	7	12	1	20	51	(中高一緒に活動)			桑内 健佑		
	サッカー部	10	9	13	32	9	10	7	26	58	松永陽太郎	山本 胸太 高際 悟	清水 星希	深井 航	鈴木 康平	伊藤 佑太
	山岳スキー部	3	2	3	8	6	1	4	11	19	西川 輝	宮崎 邦紘	祖山 大輔	大石 裕基	落合邦太郎	近 亞沙人
	水泳部	7	7	7	21	4	0	9	13	34	上村 亮	荒井 修平	西村 優輝	長尾 卓弥	梅田 晃彦	山田 直貴
	卓球部	5	11	6	22	11	1	10	22	44	神田 和範	中山 由士	川中子和輝	小杉 洋佑	松岡 秀昌	浦野 肇 柏木 祐亮
	庭球部	17	14	19	50	11	15	20	46	96	山上 修平	鈴木 健生	石井 啓貴	久保山 裕	高山 智祐	瀬戸口直也
	バスケットボール部	14	15	13	42	5	10	3	18	60	大澤 祐樹	深堀 雄斗	立花 和 西村 伊織	湊 幸雄	黒岩 聖治	ウォーリー サイル俊
	野球部	16	12	13	41	9	15	7	31	72	野尻 修平	濱田 真也		細木 堂伯	加藤 康太	角田 考
	陸上競技部	12	5	2	19	9	13	2	24	43	河口 慶	桜田 貴大	小杉 岬生	亀井 直哉	山田 司	鹿島 太一
	釣り同好会	3	5	1	9	6	0	6	12	21	(中高一緒に活動)			加来 潤貴		
	合計	99	99	86	284	78	81	69	228	512						
	総計	144	137	133	414	120	118	114	352	766						
在籍生徒数	135	138	131	404	132	130	122	384	788							

※ アコライトは合計数に含まない。兼部している生徒あり。

「教育実習で得られたこと」

教育という 仕事の再発見

日頃、学校という職場に身を置く者として、他校の様子を参与観察することができた教育実習は得がたい学びの場だった。教育という仕事に献身的に向き合う先生方の姿勢と、素直にやりとりする生徒たちの様子が印象的だった。お世話になった諸先生方と付き合ってくれた生徒の皆さんに心から感謝申し上げます。  
(石田 毅 英語科、高校三年一組担当)

教え諭す者

授業から学校生活など様々な場面で貴重な体験をすることができました。技術的な面以外に生徒の雰囲気や察知する力、経験や人間性の大切さを知りました。自らの引き出しを増やすために色々なことを学んでいきたいと思えます。三週間という短い間でしたが、大変お世話になりました、ありがとうございます。  
(井山知信 社会科、中学三年三組担当)

心が通じた時

「俺はノートを取らない」という生徒が、ノートを取ってくれた時、私は感動した。準備に全力を注ぎ、練りに練った授業を真剣に聞いてくれる生徒がいる、これが教師の幸せであると感じた瞬間であったのだ。努力すればするだけ成果として残り、生徒の心に通じる。生徒のために全力を尽くす、そんな教師になりたい。  
(島田裕也 社会、中学二年一組担当)

科学の おもしろさを伝える

実験で「なぜ」と思う瞬間に科学は存在している。だからこそ理科の授業では、実験を行うのだが、この瞬間を伝えるのが難しい。限られた時間、その中でこの科学の面白さを伝える、理科教師の難しさを感じた。今回、教育実習という貴重な体験をさせていただいた皆さんに感謝します。  
(濱島裕輝 理科、高校三年三組担当)

旅は道連れ、世は…？

教育実習で最も感じた事は、生徒と教師、お互いがお互いを成り立たせているという事である。その一方で、教師は生徒と世を旅する船の船頭でもあるだろう。世知辛い世の中を共に生きる旅人として、助け合い、幸せを分かち合える教師を目指したいと改めて思う。  
(原 栄理 聖書科、中学二年三組担当)

ついに出会えた実感

教員は、生きたくものを扱う。多くの苦悩を乗り越えて、計り知れない喜びを得る。私の夢見るお仕事がそんな生き甲斐に溢れた任務であることを知った。重原先生、中一・高一・三年生、陸上競技部、アコライト・ゴールドを始め、立教池袋中学校・高等学校の皆様に感謝致します。  
(横山啓佑 社会科、中学一年一組担当)

十 今月の 聖句

それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

「コリントの信徒への手紙二」第二章一〇節

成功よりも失敗のほうが多く、多くのことを学べる場合があります。前期が終了しますが、過ぎ去った日々から学びつつ、未来に向けて有意義な夏休みを過ごしましょう。

### 中学一年便り

#### 中学最初の夏休み

気づけばあっという間に前期最終日となってしまった。まだ入学したばかりだと思っていたのに、目の前に起る様々なことにがむしゃらに立ち向かっていったらもう前期も終わり、という感のある諸君も多いのではないだろうか。新しい友達や先生方との出会い、初めて部活、初めてのキャンプに初めての定期テスト。新しく、初めてのことだらけだった前期だったろう。清里キャンプの礼拝で私が話したことを諸君は覚えていたのだろうか。君たちひとりひとり個性がある「まき」で、その個性がうまく重なり合うことによって炎は大きく燃え上がり、この世を温かく照らす光となる。いよいよ待ちに待った中学生生活最初の夏休みが始まる。受験して入学してきた諸君にとっては、一年前の夏休みと言えれば必死に勉強していた時期。今年はずいぶん満喫できる夏休みになるという期待もまた大きいことだろう。部活に熱中するもよし、余暇を家族や友人と大いに楽しむもよし。存分に有意義な夏休みを過ごして欲しい。しかしぜひこれだけは頭の隅に置いておいてほしい。君たちひとりひとりの夏休み中の成長が、君たちひとりひとりの「まき」としての個性に磨きをかけ、その結果中期にまた一年生百三十五人が集まったときに、前期以上に大きな炎を燃え上がらせることができるというところを。君たちの一回りも二回りも大きく成長した姿に会えることを楽しみにしている。

(宮谷 直幸)

### 中学二年便り

#### 無名の人の詩から

友人からある詩が記されたポストカードをもらった。僕が好きな詩である。へ大事をなそうとして力を与えてほしいと神に求めたのに慎み深く従順であるようにと弱さを授かった。これはニューヨークにあるリハビリセンター研究所の壁に書かれた患者さんの詩だそう。

中学二年生の前期が終わりを迎えた。どのような生活であったろうか。運動部では最上級生として部の中心となり活動し始めているところもあるだろう。徐々には中心の役割を求められる場面も増えてくるだろう。それぞれが一年生の時とは違う経験を重ねていくことになる。

そんな中、いろいろな壁にぶつかるともあるだろう。人は弱い存在。それは神様から与えられた強さでもあると思う。弱いからこそ努力すること、協力しあうことができる。詩の中で求められた力は個の力。しかし、個の力では限界がある。クラス、部活、学校、そして君たちがいざれ活躍する社会。どこも力を合わせる必要がある。自分の基準だけで物事を判断し、友人を傷つけたりしたこともあるだろう。相手の弱さや自分の弱さに気づいてほしいと思う。弱い者同士、手を取りあい、絆をさらに深めてほしい。この詩にはこのような箇所もある。へ求めたものはひとつとして与えられなかったが願いはすべて聞き届けられた。

(市橋 祐介)

### 中学三年便り

#### Academic Freedom

「自由の学府」の「自由」とは、「Academic Freedom」を意味するものであると捉える。ここでは「Academic Freedom」とは何かを考へたい。

言語心理学者で私の恩師でもあるTom Sewal教授は旗が風に揺らめくの見えて「動いているのは旗かもしれない。空気(風)かもしれない。いや、君の心であるかもしれない」と述べ、Psychologistsとはどんな学問であるかを説いた。この一言で私はSoviet Unionとなった。「学問的自由」とは「動いているのは君の心か」と考えられる、発想の豊かさが源であろう。今の時代、例えば「Political Correctness」的な固定観念が定着し、しなやかな発想がしづらくなっていると感じる。しかし「自由の学府」では、バイアス(偏向)のないテーマ学習・自由研究を進めてほしい。

そのためにはMotivationが必要だ。モチベーションを高める事につながるコンセプトとして(1)Authenticity=本物の追求、(2) Learning Strategy=例えばグルーブワークが良いのか、やはり個別学習か等、(3) Learning Style=自分は視覚で覚える人か聴覚で覚える人か等、といった事柄を意識するとよいかもしれない。

(小澤 哲也)

### 高校一年便り

#### 高校生活の一步目は?

高校生としての生活が始まり、やっと一段落つくことが出来た。この三ヶ月を振り返ってどうであったでしょうか。入学式から始まり、特別プログラムなどの様々な行事をこなしてやっと夏休みとなりました。特段大きな事故もなくほっとしています。

定期試験も二回ありました。中学校とは違う科目が増え、だいぶ戸惑ったのではないのでしょうか。成績が良かった人も悪かった人もそれぞれその成績を踏まえて夏休みをどうすべきか考えてみてください。中学生とは成績の付け方も違い、出席も加味され、先生の側から干渉する度合いが減ったと思います。それは、義務教育から外れたという意識が直接将来の進路に結びつくという事もあります。自分の人となりや成績としてみられるという都合上、他人の影響を少なくするため、あまりこちら側から言うことは少なくなります。だから、自分で考え、自分で判断し、行動しなくてはなりません。面倒かもしれないですが、それは逆に言う自分だけで考えて動くのですから行動や考えの「自由度」が大きく増すことになりま

す。自由な発想は「ノルマを果たす事」に重点を置いた土壌では育ちにくいと思ふ。自分自身をなせるべくそのような環境から解放し努力が必要となってくる。アカデミックにタフになることが求められる。自由を求めてタフになってほしい。

(對馬 剛)

### 高校二年便り

#### 今しかない

「夏休み」と聞くと、無性に旅行をしたくなる。特に行ってみたいところは、カンボジアのアンコールワットだ。現在も崩壊が進み、数経年経てば、観光できなくなる箇所も出てくる。人生の中で考えれば、観光する機会は他にもあるだろう。しかし、今ある状態を観るには今しかないのだ。

同じ思いを抱きながら、結局、機を逸した場所に中国の三峡がある。ダムが建設されたことにより、すでに景観が変わってしまったという。以前の景色を眺められないのが残念でならない。アンコールワットは、「遅かった」とならないようににしたい。

「今しかない」ことなんて、見渡せばたくさんある。そう思うのが、私の場合旅行であるだけで、皆にとっではそれが、勉強であるかもしれないし、部活であるかもしれない。いざれにしても、そのことに集中して、消化できる好機が夏休み。高二の場合、「来年の夏、大学の夏もある」と思うだろうが、それは甘い。来年は「卒論があつて余裕がない」、大学は「サークルが…」、「研究会が…」、「バイトが…」とやらなくてはいけないこと、やりたいことが湧き水のように出てくる。それに、高二の今しか目に映らないものもあれば、今しか涌いてこない感情だってある。「今しかない」を逃すと、私の三峡に対するのと同じく、心残りになる。どうか、有意義な夏休みを。

(永田 真一)

### 高校三年便り

#### 己を知るといふこと

高校三年生になると、進路について考えることが多くなります。立教大学へ推薦されるのか、他大学を受験するのか。どの学部・学科に進学するのか。決断を迫られる時期は目前に迫っています。

君達は自分の進路をどのように決めてゆくのでしょうか。友達が行くから？卒業しやすから？なんとなんく面白そうだから？このような理由で人生を決めてしまふ人はいないでしょうか。「本当にやりたいこと、勉強したいことを選べ」とよく言われます。しかし、自分でも本当にやりたいことが何かかわからないという人も多いのではと感じています。

そんなときは自分の中高六年間を振り返ってみてはいかがでしょう。立教池袋で学んだこと、体験したこと、楽しかったこと、つらかったこと、苦労したこと。これらのすべてが今の君達をつくっていると言えます。そしてこの経験によって、現在の君達はどのような成長しましたか。「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなればあなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい」(マルコ九章五〇節)

(後藤 寛)

### 運動部成績

#### 高校ゴルフ部

関東高等学校ゴルフ選手権大会が六月一日に出場し、次の結果、関東大会(那須野ヶ原七月二十五・六日)に出場が決まりました。

#### 個人戦

Aブロック 第11位  
沼沢 慧太(二年)

#### 団体戦

Aブロック 第5位  
兼田 大嗣(二年)  
沼沢 慧太(二年)  
藤波 恰(二年)  
植島 太一(二年)  
宇佐見 雅俊(二年)

#### 高校水泳部

#### 都選手権水泳競技大会

▽二〇〇m バタフライ 第9位 宮田 朋仁  
二分〇九秒六九  
▽一〇〇m バタフライ 第7位 鈴木 総一郎 五六秒九一

また、鈴木 総一郎は七月二十四日、二十六日に栃木県で行われる関東大会に出場します。

#### 中・高陸上部

▽インターハイ出場決定  
五月に行われた東京都高校総体において、高二佐藤がハンマー投で大会新記録をマークして優勝を飾った。また、四〇〇m ハードルにも出場した高三龜井も6位に入賞し、関東大会出場を決めた。佐藤は関東大会でも4位に入賞し、奈良県で行われるインターハイの出場が決定した。

中学生は五月・六月に地域別大会が行われ、中三河口、中二桜田、田島、中一鶴木と低学年レレーが都大会進出を決めた。